

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター セレン学園		公表日		2026年 2月 25日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	9	<ul style="list-style-type: none"> 個別で使用できる部屋数が少ないためクラス内でスペースを仕切る等工夫をして使用している。 部屋の高い位置の洗面台が使用していないのでなくても構わない 定員数に対して部屋は狭いと感じるが、パーティションを使用したり環境調節を行い、工夫している。 クールダウンができるスペースが少ないが空いている部屋などを使って行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> クラス内で個別指導を行う際の環境・人員 クールダウンする場所がない。特性、レベルに合わせて小グループ活動が必要だが場所がない クラスの部屋が定員人数に対して少し狭い。個別療育用の部屋が少ない。 個人の私的な理由が優遇されすぎている所が否めない現状がある。 部屋数が少なく、増やす方法がない。 部屋数が足りてないので、増えたとお良 	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	7	<ul style="list-style-type: none"> 職員の中で調整している 職員が不足している時は臨機応変に他のクラスの職員が入っている 支援員数が多いので一人一人に目が行き届くと思う。 人員が増えて定着しているので良い 	<ul style="list-style-type: none"> 毎日一定の人数確保は難しいが、クラスの環境に合わせてパートさん含めて人数配置を調整していきたい。 人数に合わせての職員配置ではなく、他害がある子どもやマンツーマンでつく必要がある子どもに配置できる人数が必要 個別につきたい子につけずもどかしい時が多い。 お子さんの状態像に対し職員が少ない。 適時人材の募集をかけているが継続しない人も多く見受けられる。 人が増えてもその分、連携や情報共有の課題も出てくるため、非常勤、パート職員の方たちの意見が反映される仕組みと情報共有できる仕組みが必要と思われる。 クラスによって職員の配置数が足りているところと不足しているところがある。 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	6	<ul style="list-style-type: none"> 絵カード等、視覚的配慮が浸透してきている。 各クラスの子どもの特性により、掲示の方法を工夫している トイレが1箇所しかなく、ホールを通過する必要があるため改善が必要かだと考える。 トイレなどにもう少し手すりなどがあると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> トイレの汚物を流すような場所は子供の目に触れない位置に配置してほしい トイレへ行くためにホールを通らなければいけないため、スムーズにトイレやクラスへ行けないお子さんがいる。 棚や水道など利用児が登ってしまうことが多い、棚の戸も落下することがあり設備不良を感じる。 室内にパーティション等の仕切りが設定できれば尚良いと思われる。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	16	2	<ul style="list-style-type: none"> 日当たりがよくて冬も暖かい 職員できちんと掃除をしている 清潔を保つ為に、日々の掃除や小まめな清掃を心掛けている 毎日、清掃を行っており清潔だと思う。 活動に合わせて職員が工夫しているので良い 	<ul style="list-style-type: none"> 災害が起きた時の対策が不十分と感じる。(高いところに物が置いてある、ロッカー等に揺れた時のガードがついていない) 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12	6	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて使っている 部屋は使用することが可能だが、部屋数が足りていないと思う。3階のスタジオも借りにくい状態になっているので、改善してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> そもそもクールダウン等で個別に使える部屋がない。 個別の部屋が少ない。 個別の部屋が足りない 新年度に向けて環境設定、部屋の確保を明確にしたい 部屋数が足りない為、もう少し工夫が必要 	
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14	4		<ul style="list-style-type: none"> クラス毎に振り返りの頻度を現在より増やしたい。パートさんも含めて振り返りを行う機会が欲しい。 PDCAサイクルはあまり行われていないと感じる。 課題が何なのか、どのように(長期的or短期的に)改善していくのかが共有できていない。法人内の他事業所の管理職等、第三者の目線やアイデアも必要。 	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター セレン学園		公表日		2026年 2月 25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	3			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	13	5	・風通しの良い職場で意見しやすい ・定期的に会議は行われているのかと思うので、意見は上げやすいのかなとおもう。	・意見を把握する機会が必要だと思う。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	16	2	・今後行うと思う ・今年初めて第三者評価が行われる		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14	4		・研修は職員の自発性に任されている状況。 事業所の課題は何なのか、職員個々の課題は何なのか、管理職が把握し、明示して事業所全体で取り組んでいく必要がある。 ・研修は少ないと感じる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	1	子どもに合わせ活動を考えている	作成されているが、抽象的な内容の場合がある。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	16	2		具体的な内容にした方が良いと思う。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	17	1			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	16	2		・共有されていない場合がある。 ・できているところとできていないところがあると思われる。日頃から定期的に計画を見返す仕組みを作り、進捗状況の確認が必要。 フォーマルなアセスメントは取っていない。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	13	5		フォーマルなアセスメントは取っていない。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	15	3		具体的な内容にする必要がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	17	1	・クラス職員間、クラスを超えて作成している。 ・職員で協力をしている		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	18	0	・子どもに合わせ内容を変えている ・毎日、支援者が様々な活動を考えて行なっていると思う。		
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	16	2			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	16	2	職員間で声を掛け合っている	・担任のどちらかはバス添乗に行く為、十分な時間が取れていない。 ・担任間では話し合っているが、保育時間以外にクラス職員全員が集まり話ができる時間があまりない。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	4		検証する時間が必要だと思う。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	4		検証する時間が必要だと思う。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	17	1			

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援センター セレン学園	公表日	2026年 2月 25日
------	------------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	16	2		児童、ケースによって異なる。
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	15	3		・健診等はあるが精神科相談など支援について、個々の障害や行動等について職員が相談できると良い。 ・地域の発達障害に特化した病院等詳しい情報を仕入れ、保護者に共有されると良い。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	15	3		
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	16	2	・希望者には作成している。 ・普通級への進学児童に対しては、相互理解が浅い	
	28 (28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	15	3	市川市のこども部会、障がい児連絡会の幹事となり、会の運営に携わっている。障がい児連絡会には職員も参加して研修等に参加している。	
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	12	事業所内にいる専門職から助言を受けている。	外部研修へ行く機会は体制的に少ない。
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	18	0	市川市のこども部会の幹事となって、地域のこども関係機関との繋がりを持っている。	
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	10		・セレン保育園との交流がなくなっている。 ・保育園が併設されているが交流の機会が少ないと感じる。 ・2階に保育園があるので、もっと交流を増やせると良い。
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	15	3		保護者とズレがみられることがあるため、共有した方がよいと思う。
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	8			
保護者への関与	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	3		丁寧に説明されているかわからない。
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	18	0		
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	18	0		
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	17	1		・助言しているかどうかわからない ・行っているとは言いがたい。保護者によっては相談できずに抱えている方もいる。適宜、相談に応じている旨、チラシ等で通知できると良い。
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16	2		きょうだい同士はない。 きょうだい同士の交流の場は設けていない。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター セレン学園		公表日		2026年 2月 25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
説明等	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18	0	相談に対し面談している。		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	17	1			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	2		明確な取り決めがないので適宜、周知や見直しが必要。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	17	1	伝わっていない場合には再度お知らせしている。		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	12	6	夏まつりで行っている。	地域住民との関わりは少ない	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14	4		緊急時対応を想定した訓練を行なっているが、防犯については不十分。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14	4	3階への避難訓練を行なった。 毎月1回様々な災害を予測した避難訓練を実施している。	防災用品の十分な確保や災害時に送迎車が出ない、お迎えに來れない場合の対応が充分でないと思う。 BCPの内容集中するまでには至っていない。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	17	1			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	18	0			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	15	3		研修の必要がある。 安全計画の内容は周知されていない。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	16	2			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	15	3			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	15	3	研修は少ないと思う		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	18	0				